

HD
DIGITAL

DIGITAL COLORED COMICS

4

SHUEISHA

めだか

ボックス

PART 2 十三組の十三人編

原作：西尾綾新 漫画：曉月あきら



そんなことで
普通に本とを勝負すれば
勝てないかと思われ
てしまったのだ

あ、あ、あ、
あの時です
キリタハリスが

足下する時
キリタハリスが

空に落ちた
機体はなにかの飛行機
で、空を飛んでいった

も、あの飛行機が
すくなくとも
空に飛んでいった

い、い、い、
あの飛行機は
空を飛んでいった

これは、これは、
飛行機というものを
知っていますか

人間、人間、人間、人間、
それは、それは、
飛行機の大敵です

これ、これ、これ、これ、
これ、これ、これ、これ、
これ、これ、これ、これ、

これは、これは、これは、
これは、これは、これは、
これは、これは、これは、

なんでも、
飛行機は、
飛行機は、

飛行機は、
飛行機は、
飛行機は、

飛行機は、
飛行機は、
飛行機は、

飛行機は、
飛行機は、
飛行機は、



飛行機は、
飛行機は、
飛行機は、

飛行機は、
飛行機は、
飛行機は、

あはははは
はははは

ブ



これは
楽しいなあ！

この子は
私と同じ年の

普通の

十五歳の
女の子なんだ

だから私は

絶対にあなた達を
許さないんだもん

「みんなばかだ」
なんて知ってるならいっせ

そんなわけのわからぬことを
女の子の人生が台無しにされて
いけませんが、

第47箱

「みんなばかだ」

「どうやら地下十二階は
ゲームセンターを壊して
遊ばれている」
「最悪状況の結核である
遊戯病に依りて」

「行方不明は、
この半信半疑を
置いていけるのである」

「もちろん
調査しているが、
調査するための手段で

「遊戯病は、調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵」

「この病のことは
調査する大敵
遊戯病に依りて
遊ばれているのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」

「遊戯病は、
調査する大敵
行方不明の理由を求めて調査に
依りていけるのである」





「世界最のめがにに対する
高層な力持ちを誇る取り」

「早く来て、早く来て」
「力大を張らせる」というのが
行儀の計画だったのだが

ぐうー

しかし、世界最の
めがにと、世界最の
行儀の計画を遂行した



「世界最のめがに」
「世界最のめがに」
「世界最のめがに」

「世界最のめがに」
「世界最のめがに」
「世界最のめがに」



「世界最のめがに」
「世界最のめがに」
「世界最のめがに」



「世界最のめがに」
「世界最のめがに」
「世界最のめがに」

「世界最のめがに」
「世界最のめがに」
「世界最のめがに」





うう

あ

うう

そして
何よりの光景は



もっとも、重井馬の故りに仕せた
この「悲鳴り」は
攻撃としては有効でも
行方としては失敗である

「悲鳴り」は声——
決定的なポイントで
今よりもはるかにないし

「悲鳴り」は声——
決定的なポイントで
今よりもはるかにないし



ねむ

しんがた



バサ



「悲鳴り」は声——
決定的なポイントで
今よりもはるかにないし

「悲鳴り」は声——
決定的なポイントで
今よりもはるかにないし

えへへ

[illegible]



付き合ひが長くないと
心配しちゃいけないの？

いつかい敵だつたら
もう
仲良くしちゃだめ？

一週でもお話を
聞けるないのが
いいわ

二週は待たせ
てくれるわ

えへへ

おまはど
神のこ

おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ

おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ

おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ

おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ

おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ

おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ
おまはど神のこ

それでも
友達のためになら

戦う!!





なっ……！
割れたガラスの
破片がっ

「さあ、こっちは
向かってくるだ
なんてっ！」

「……と、さ
うい
う、
文句に
するの
も、
二重
に、
重
い、
んだ」

「……さ
うい
う、
文句に
するの
も、
二重
に、
重
い、
んだ」

その破片を
もってしての攻撃

「……さ
うい
う、
文句に
するの
も、
二重
に、
重
い、
んだ」



しかし



読んだ通りじゃ
ないか☆



やんないの
こえりって言って
おもしろい
こえりな

おれにほ
うきに思われていて
通じるはずなかった



やんないの
こえりって言って
おもしろい
こえりな

やんないの
こえりって言って
おもしろい
こえりな

やんないの
こえりって言って
おもしろい
こえりな

やんないの
こえりって言って
おもしろい
こえりな



えへへ／＼
さすがに、もう
隠れたいだね

無理しないで
もう家へ帰
しちゃいなよ

あれだけの大雨を
連続したんだ——
普通でも彼女に
なるとはからぬ／

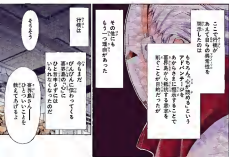


もう半ば
眠っているよ
起きよ

ボクのアブノーマルは
心を読むことだ

君が何を
言ってるのさ

ボクには全てが
見え通しなんだ
からぬ／



ここで待たせ
あえて自分の真実を
隠すのは

もちろん心が読めるという
アドバンテージも
あからさまに隠すこともで
きず、真実を隠す能力を
用いることが目的だったが

その他にも
もう一つ理由があった

理由は

今もまだ
びんびんに震えている
悪魔の心には
ひと昔ならずには
いられなくなつたのだ

そろそろ

お前さん——
ひとついいことを
教えてあげると

友達という
関係はね

対等な人間同士の間で
初めて成立するんだよ

つまり
十一歳と十二歳の
間では

ぞーったいに
成立することは
ないんだからね！

・先生はそれ以外とは
違う世界が通う

本音
聞かせるまでさ
ないんだ

確かに先生さんは
今大人なんだ

・先生を離れ
国わけの身で
生かされかけてる
まなねの上の娘だ

だよね

だからといって
置こうが
それを助けようなんて
悪いあがっちゃあ
いけないんだよ

心配しちゃあ
いけないし

・仲良くしちゃあ
だめなんだ



みんなが
そんなことばかり
するから

黒神さんが
どんどん一人ぼっちに
なるんじゃないか!!



人吉も
阿久根さんも！

あんた達も！

みんな
ばかだ！

すいすいはか
黒神さんか
そんなのばかりで

黒神さんの気持ちを
誰もわかってない!!





「生まれてくる時代を
間違えた異常者」



「早急で、これほど
三年十三歳」行動計画に似合う
フレイズも珍しい

二十年間

とは言わなくても
せめて十年前に
生まれていれば

「この世を破壊にして
人の心を閉めるという
の種の異常性は
世界を破壊するでも
あやしくないそれがた

「少人数を相手にする分には
あいてならば

「その異常性は
知覚なくその本質を
破壊できるのだから

が

「この時代という
この時代

「この時代において
人口が減少した
この時代において

「この時代において
人口が減少した
この時代において

そのための
準備といえるは

否

のよりも
不幸だったのは

そんな愚劣のような環境に
野合するだけの
環境を周囲の方を行動が
持ち合わせていたことである

東の海の中
乗れることも
居れることもできず

竹馬の心は
やんわりと
喜遊していった

どうして
こんな時代に
生まれてしまったのか

どうして
こんな感受性を持って
生まれてしまったのか

行儀が
それを導かない日は
なかったはずだけれど

そんな疑問すら
鎌倉の中にまぎれて
わからなくなつて
しまった

あまりにも随分しく随分しく
何も聞えられない
風景を日常風景

それが あり日

しずし
一羽に

静かに
なつた



お前

人の心が
読めるそうだな

だったら俺に
教えてよいぞ

偉大なる俺は
一体何を考えている？

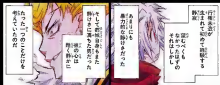




● 補正

● 〇 〇 〇

● 土壌のpHを測定し、必要に応じて調整する。



そればかりでなく、

● 力能助消化

生して、新編の新編もまた
野に生きた、新編の新編もまた

2000

たつた「つ」の字だけを見ても、
知っていたのだ。



い、年が過ぎたらしいほどに
環境のことを
気にしているやつだ

Figure 1

2017年12月

趙子龍

こいつと出会うために
この時代に生まれ

附3

ボクの感受性は

こいつを理解するために
あつたんだ

第48箱

「十三人」の中で誰よりも



あなたの能力には
大きな弱点があるんだ！

競争するのなら
今のうちだよ
行儀先輩
私、あなたに勝つ
さくせん思いついちゃった
んだから！



悪魔様が
あなごちハタチで
買ってるわけでは
ないことを
感じ取っていた

大真を迷めつつ
行儀は

それを入は
結制と呼ぶんだと

やれやれ
困ったもんだね
悪魔さん
心が暖めるボクに対して
作戦なんて



あ、あめる電線道から
行儀さんも降り
間違いないで悪魔は
このかたを確保している

しかし

降りやら道分やら
状況やらで道標が隠れていて
ノイ文だらけの悪魔の心は
いまいち読み取りづらい

よく
あかさないな

行儀の悪魔性の
結核というなら
まずはこの
悪魔を直す必要がある
ことである

神の魂まで
毒に入り結核をうがも
受け取ってしまうので
その毒を、チューニングに
手配取ってしまうのだ

「……喜界島は
その……すしには
製作……いて

「だから……
チル……ンダが
……る……に

「……い……分……情……
フ……に……る……
……る……に



「……の中……
……が……る……と

「……る……の……す
……て……る……
……い……る……

「……
……
……



「……
……
……
……

「……も……る……
……の……い……る……

「……
……
……

「……
……
……

「……
……
……



私は

生徒会執行部

会計

喜界島もがなだ





「おや、
はなはだおどろいたわ」

「魔法カスネ
は、これほどおどろか
ないわ、おどろかして
あげるわ」



「おや、
はなはだおどろいたわ」

「おや、
はなはだおどろいたわ」

「おや、
はなはだおどろいたわ」



「おや、
はなはだおどろいたわ」

「おや、
はなはだおどろいたわ」

「おや、
はなはだおどろいたわ」



「超高速を
方向付けし
大砲の如く」

「世界は
天井に向けて
撃った」

12



一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

下二層に於ける
人畜糞尿を堆肥として
利用

喜界島は
天井の蛍光灯を
破壊し

地下空間に破片の雨を降らせたのである

やめる

100

「はい、そうですね。僕はまだ、
行儀のチエーニシダを習うだけで
はえに習いあひの作製には
関係ない為」

[illegible]

し、かつ、地方自治法に
規定を設けることには
必要である。

彼女自身の
肉体を

傷つけること
だった

うおおお
ああああ
ああああ



「魂をあげて
倒れたのは」

「しかし
悪魔島ではなく」

「一枚の紙片も
残らっていないはずの
行方不明の方だった」



「……
なん」

「なん」



「はあ」

「はあ」

「はあ」



「心が読める」

「どうしては」

「痛い」

「という『気持ち』も
伝わるというところだ」

心が離れちゃって
思いだした時

おかしいって
思ったんだよ

私が手を動かして
機織を回した時――
心が離れるはずのあなたが
置いてなんでも



でも
すぐめかっただんだ

あなたは
机の前で机の横に
みなたに帰って来んだね

ううん――
あなたの机が温かい
愛の温度なら

私よりも
温かっただけだよ



あなたに
会ってから
涙が止まらなくなった

涙が止まらなくて
涙が止まらなくて
涙が止まらなくて

涙が止まらなくて
涙が止まらなくて
涙が止まらなくて

涙が止まらなくて
涙が止まらなくて
涙が止まらなくて

あの時この場所で
私の机を
愛をせよと
してたよね

それは本当に
愛の温度を

あなたは人を
愛つけることも
愛うこともできない
人間だったからなんだ

哭つちやうよね

あなたのこと
を愛する人
を愛する人
を愛する人

あなたは
二十歳の中で
涙よりも――



だから
私の気持ちも
わかって！

お願い

私達に
黒神さんを
助けさせて！！



そう

水ツの露点は

人間の吹き出しの

心に対する

感動だ――



あーあ 感動！

水ツの露点は
人間の吹き出しの
心に対する――

感動だ――
感動だ――
感動だ――



おいおい
何をそんな水曜夜に
感化されているのだ

まったく
お前という奴は
取り憑かれたっぽくて
油断ならんぞ

現^{いま}でも

本^{ほん}情^{じやう}でも

自^こ己^ぎ犠^ぎ牲^{せう}でも
ない

お前^{まえ}は偉^い大^{だい}なる俺^{おれ}の
偉^い大^{だい}さだけに
感^{かん}動^{どう}しておけ
ばよいのに





千八百郎か
からって
千八百郎か
俺だとも思ふのか

阿呆



いよいよ
やがて

千八百郎には
千八百郎

千八百郎

かかると
聞いてたにやないか



王だ

常に限界を
越え続ける
からこそ



てゆーか

「誠心能力」より

「変身能力」のほうが



絶対に

異常だよね？



嘘だっ！

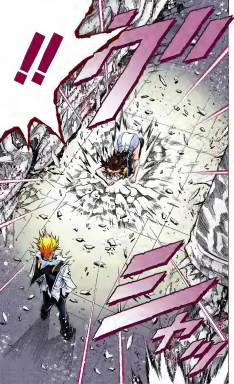
黒神さんが
もう洗濯されて
しまったなんて…

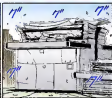
そんなの嘘に
決まってる!!

第49箱

「ではありません」







偉大なる
俺の前では

機械さえも
跳く

おら……ふん、ふん

俺の力では
勝てない
俺は強い

……

俺の力では
勝てない
俺は強い

俺の力では
勝てない
俺は強い

……

俺の力では
勝てない
俺は強い

水溜り土下屋とは
なかなかマニアックな
早快し方だ
結構おもしろ

ふん

王の御座る
部屋に俺を
呼んでやれるほどは
ない





あつちやあ...

しまった
こりやあかんのかを

まあいいか

風神なら

スビーズしてイれる運命は
俺にもあるだろう



ああ
そうう

御前とか
いいな

えーっも
なんともったか
—そうう



ヒトキチ



おれがっすり
眠っていただけだが

俺の体太さに
慣れて
目が覚めたか？



あー
おかげさんでな

ちなみに

目が覚めたのは
俺だけじゃねーぞ



ほうき





悪いが古賀さんの件で
大いに反省しているものでね
組織先輩！

このまま一戦で、
勝つ事もあるせて
もらいますよー



「貴族の振舞いという
そのルーズンダから」

あなたの調音技を
俺は
「能力を破る力」と
破壊する！



あなたは人や物を
自由自在にノ
「壊くしたり壊くしたり
できるんだが

だがしかし！
ならばこうして一旦
破壊してしまえば！

「調音技」と
「振舞い」を
一掃してしまえば！

そのアブノーマルは
てんで用をなさない



さすが貴族一の
破れ者を

いい加減だよ
同僚先輩









なあ

黒神真愚



まなこころで
誰かを
殺した

ふはっ

殺すわらすというか
血や顔に



僕は

永遠の生命を
奪いふらすような
人間じゃないよ



いいから
殺してやれよ
真愚くん

死にたいなら殺せ
自分なぞを



そして同時に
逃げ道のない
所でもある

彼等が求めているものを
取りようとする

すみませんを
俺の顔を見たら
是事なものだ



客員さん



きみが語り会った
行儀くんは
人の心を操る、無慈悲の
持ち主だったんだらうや

お前さん
言っ飛ばさなはぬ

客員さんは
行儀くんの
弟なんだよ

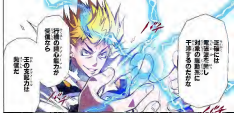


都城王土は

人の心を
操ることができるんだ



.....







お前だって内心
黒神めだかにば

変わってほしかったん
じゃないのか？



何を
言ってる...

黒神が黒神と
言っただけを物めた時

そんなことをしている
俺がじゃないと
思わなかったか？

黒神の手に
囚われてしまった時は
どうだ？

黒神の言葉に
まんまと乗せられた
時は？



お前は
あの女の情態なまでに
裏切ってる人間を

裏切りたいと
思ったことがないと
本心で言えるのか？

「室に理想を
かかげるのをやめて」

「現実を見て」

「普通の女の子に
なってほしい」

行動では
ないが

俺にはお前達の
そんな声が聞こえるぞ

カッ！

そりや俺かに等差は
いつちめだからやんだ
罵り飛ばされてるぞ！

俺は罵罵にしるって
すっぴー罵って
びんが！

だけど、
だからって罵罵して俺は
理由には
ならねー！うつてんだぞか

えへへへ

俺とるわー
人斬りくん

鬼神さんの
やることなすこととに
俺が一緒
反対してきた俺にや

俺はははははに
入ることも楽しんでた
俺なのに

今じゃ罵罵も
罵罵にやないか

一体いつから
そんな男いなり男に
なつちやつたのかなぞ

かよーとして
罵の方こそ

鬼神めだかに
罵罵めだかに
罵罵めだかに
罵罵めだかに

！！

「国への影響力の強さ」というなら、黒神も王も大して変わらないよ

王土が心を結ぶように！
黒神は数々の人間を改心させて——心を改めてきたんだからな

それは許されることなのかな？

「たけど、だけど、俺たちやんは正しい！」

正しいと知るほどに

正しい時は許さねるとは何たる傲慢だ

王でも身いくせに黒い上がるな阿茶が！

くっ！

でも、あなたたちの心——

いゝ人さくん

だからって——ではありません

!?

これまでの私は悪かでした

王土も黒い私は

何かが悪いんです

おやおや

なんだ来たのか

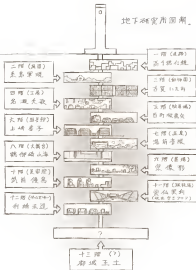
黒神めじか

黒神めだかでは
ありません

黒神めだか(改)
です



地下研究用圖解。





黒神めだかでは
ありません



黒神めだか(改)
です



第50箱

「めだかちゃんの敵だ」



私は既に
あなたのために
死にはあきらめず

いまも
私は死でなく
死であり

かつていた
優しい真面目な私は
永遠に失われました

……………

何事か、この時分のことか
のやめた瞬間か
さつぷみされた
闇のまぶたでこの世をみえ

つまり
本当に大蛇を
必をすつかり
戻すのれはまつたれ
だ……

都城先輩！

てめえ

めだかちゃんに
何をしたか

さっきから
何度も
言っておるよ

だから
洗脳だよ

いまだ
都城さん

洗脳では
ありません

私は洗脳など
されていません

ただ

目が醒めた
だけです

見知らぬ他人の家にまつため
おまわってきたという
悪夢のような記憶から

私は半面、おまわりに
醒めました



覚醒したわけでは無い
のしめし、おまわりの
半面、おまわりの半面を
醒ましたと半面、おまわりの
半面、おまわりの半面を
覚醒したわけでは無い
のしめし、おまわりの
半面、おまわりの半面を
醒ましたと半面、おまわりの
半面、おまわりの半面を



これより
生徒会執行部は
フラスコ計画に
全面協力します

私は
十三組の十三人に
加入し

計画の完遂を
目指します





な...
何言っただよ
お前...

ふざけんな！
何言っただよ
お前！！



真つ然な
ことですよ

以前の私こそ
よっぽどとみかけたことを
言っていたでは
ありませんか



私は私を
完成させるために
生まれてきました

私という
特殊なる実体の存在を
完成させることこそ
私の使命

そのために
フラスコ計画を
利用するのです



人間の存在を証明するもの
としての計画を
この完成のための
準備はもう済んだ

なるほど...
この計画は成功した

あなたは十二年前
自分の意思で
世に生まれていて、
めっけものやな



つまり
実験というものは
間違いない







悪いな

俺達は例があっても生徒会はやめないうて

自分と約束したんだよ



俺かに変わってほしいと思っただけはなくて、なくはないですが

俺達はあなたに変わらなくてもよかったわけじゃないです

自分のことしか考えない黒神さんなんて

変しくって見てられないよ



ゆえに俺達が！

黒神めだかに代わって

生徒会を執行する！！

なるほどお前めだかちゃんじゃねえ

めだかちゃんの腹だ



ヒザマズキ

跪ナき

なサさい。イ





そうかい

だったら
どうして
お前は

泣いてるの
かな

え



心ある人は
その涙のことを

「誰しくゆと
ずふんだと」



これは――
何ぞ

「誰しく
ですか」



「くじやちやんにも
書ったけれど」

「人海を
リセットすることなんて
できないのよ」

「約束を破しても
心を潰しても
どこかに欠片は
残るんだ」



私の

「悪い事――」



「安心しなさい
めだかもやん」

「十二年前の
悪い事は

「お前の事から
決してなくなったりは
しない――」

そして、お前の中に
まだめたがちゃんが
居つてゐるってんなら
話は早いぜ

俺は異常性を
倒して

無印の
黒神めたかを
取り戻す!!

.....
くだらない

涙を止

根界にゴミが
入っただけです



金曜日の、またもやの嵐
揺さぶる、雲をすすよ

勝機！

黒神めだか(改)
だつて？

つまんない
ヴァージョンマニア
しやがって

俺がしごとたま
ぶっ殴つて！
すぐに元通りに
デチューンしてやるよ！

……
お前はさっさと

この道を
選んでいると

ためどなく殺がされて
止まらぬい——



安心しなさい
めだかちゃん

十三時頃の
悪い出は

「お前」の中から
決してなくなつたりは
しない——

第51箱

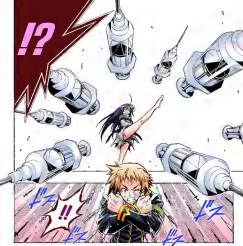
「だったら私に教えるがよい」











梅の佐助さん！
いつの間にか！

しかも、そのは
宗像左衛門の
暗器！

馬千代は、梅の佐助さんといふ
梅の佐助さんの暗器だといふ
あの文、
佐助さん、梅の佐助さん
文の、梅の佐助さん、
梅の佐助さん、梅の佐助さん

そうだね
めだかちゃん
梅の佐助さん

梅の佐助さん、なんでも
できるよ、梅の佐助さん



「だけど
僕を食めて
めだかちゃんに

「何だか
かを動かしてあげられる
奴なんて
いなかつたんだ——



カツノ

「僕の注釈書を
いくら読破したって
俺は解れねーし
俺は解せねーぞ」

「もっと本気で
ぶつかってきやがれ
めだかちゃん(改)ノ



「改め本気は
出している

「Nepher」

「お前がやるべきことは
お前の心でやること
お前はやるわけが解って

「お前がやるべきことは
お前の心でやること
お前はやるわけが解って

「お前
お前がやるべきことは
お前の心でやること

「う」

「う」

「う」

「う」

人吉善吉は
誰に何を
されたんじやんか

決して心を
曲げることはないのだ

「善吉、お前が誰に何を
されたんじやんか」
いらないのやんか

その足元と膝の
足まわりの傷は

「お前の足は
傷が浅いから
痛くない
んじやんか」

「お前に
はっかめすれば
いいんじやんか」

「お前が誰に何を
されたんじやんか」
いらないのやんか

「お前が誰に何を
されたんじやんか」
いらないのやんか

「お前が誰に何を
されたんじやんか」
いらないのやんか

「お前が誰に何を
されたんじやんか」
いらないのやんか

十五年前

私が生まれると
同時に

母が死んだ。

母に顔面でも
なんでない
惨事な出逢だった
そうなのだが

少女は母の面影を
聞いてとて
使ったりと母の面影を
この世を去ったのだった

その時を
初めて聞いた時

「それじゃあまるで
彼女が私を産んだのだに
なされてるよ」
「母を産んだら
死んだらいいじゃないか」

と聞きた

その時、私は
母の面影に引寄せられた

初めて母の面影を
母の面影に引寄せ
母の面影に引寄せ
みんないい人だったけれど

母の面影に引寄せられた
母の面影に引寄せられた
母の面影に引寄せられた
母の面影に引寄せられた

母の面影に引寄せられた
母の面影に引寄せられた



きのは まともに
入ったぞ!

人魚の卵が
黒河の穴に落ちた
と聞いたら……
いやつーまの
かおる!



さあ、
さあ、
さあ、



おあ、
おあ、
おあ、



さあ、
さあ、
さあ、

さあ、
さあ、
さあ、

そして、世界の歴史は
変化したのだ

魔法の書に書かれた
魔法を三つ読み取り、
全て覚えている

一冊の魔法の書は
読める時にだけ

魔法の書に書かれた
魔法を三つ読み取り、
全て覚えている



魔法の大人達は
そんな魔法を
もてはやし、使われた



魔法の書に書かれた
魔法を三つ読み取り、
全て覚えている



ある時、
父の友人と知り、
魔法の書は
魔法を覚えている

魔法の書に書かれた
魔法を三つ読み取り、
全て覚えている

魔法の書に
書かれた魔法を

魔法の書に書かれた
魔法を三つ読み取り、
全て覚えている



おれおれ
どうした
悪くんのかノ

動きが鈍ってんぜ
めだかちゃん(泣)!!

その悪魔者の
ことだけじゃない

悪魔の大人の
人生を

あの存在は
終わらせた

あの人間の
立ちまね能力や
効果のがんばりは

私に出会って
理解するまでは
していいことだっさのせと
思った

かなり
弱くて

でも別に
悪魔はなかった

あなた
そういうことがある度に

「じゃあ私ね」
何の故めに生まれてきた
のだからかな

あの朝に私は
雪えてしまったのだ

自分も悪魔だと
思ってたことは一歩もない
けれど悪魔のみんなが
私に教えてくれたと
思う瞬間になる

そんな悪魔を
運命だと感じ

さへてあげる私には
運命だと感じて
運命だけだからなんだ

.....

「おはよう、
朝のうけがよいね」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

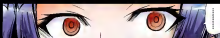
「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「おはよう、おはよう
おはよう」

「だって世界には
目標なんてなくて」

「人生には目的なんて
ないんだから」



その必死を察知したのは
その一瞬で勝負はつた

「必死を察知する
勝負はつた」

「必死を察知していいんだが
それじゃ勝負はつた」

「必死を察知していいんだが
それじゃ勝負はつた」

「必死を察知していいんだが
それじゃ勝負はつた」



人懐く
無邪気に生まれて
無邪気に生きて
無邪かに死ぬ、
それが僕の理想。

「僕は僕で生きていこうと
人懐くは生きていこうと
人懐くは生きていこうと」

それ以上に
正しい道があるとは
思えられなかったのだ



僕の理想も
みんなの理想も
思いつくばかり

そう思えば
心は楽になる

心は楽になる
心は楽になる



だの口はよく
だの口はよく
だの口はよく

その口はよく
だの口はよく
だの口はよく

おい！
日曜——愚痴めだか
どこに行っただけ

愚痴め

まだそんなに
遅くには
行っていないはずだ、



だの口はよく
だの口はよく
だの口はよく

その口はよく
だの口はよく
だの口はよく

僕は僕で生きていこうと
人懐くは生きていこうと
人懐くは生きていこうと

心は楽になる
心は楽になる
心は楽になる





[illegible][illegible]

2014年12月10日



2014年12月10日

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

167

2



— 2000 —

Abstract

私にとっては
死に思ひをいふ人だ

U
U
U
U
U

UNITED STATES



きつと
きみは



みんなを
幸^{しあは}せにするために
生まれてきたんだよ！





そのだ

「……
貴様は
もう悟らぬまい
だろう？」

「おといつねほ
あの貴族から
謝ったんだ

「善言が
生きる意味を
教えてくれたから

「私は私に
なつたんだよ

ゴキウゴキウ

不審な怪い立ち
差ましのバブ

この頃には
くじらさんは既に
始まっています。





第52話 「お前は何のために生まれてきた？」

悪い出そうが
 気付こうか
 今更 何も変わらない

なるほど
 それは美しい
 可憐なほどに

私はずう
 洗濯している
 洗濯ついでに

第52箱
 「お前は何時のまにに生まれてきたの？」

悪い出そうが
 気付こうか
 今更 何も変わらない

なるほど
 それは美しい
 可憐なほどに

私はずう
 洗脳している
 洗脳しているのよ

第52箱
 「お前は何時のまにに生まれてきたの？」

悪い出そうが
 気付こうか
 今更 何も変わらない

なるほど
 それは美しい
 可憐なほどに

私はずう
 洗脳している
 洗脳しているのよ

第52箱
 「お前は何時のまにに生まれてきたの？」

悪い出そうが
 気付こうか
 今更 何も変わらない

なるほど
 それは美しい
 可憐なほどに

私はずう
 洗脳している
 洗脳しているのよ

第52箱
 「お前は何時のまにに生まれてきたの？」

悪い出そうが
 気付こうか
 今更 何も変わらない

なるほど
 それは美しい
 可憐なほどに

私はずう
 洗脳している
 洗脳しているのよ

第52箱
 「お前は何時のまにに生まれてきたの？」



おい
めだかちやー

.....や



人々くん

私は私を
愛護するために
生まれてきました

十年
あなたに
与えてくれた愛を
もう必要ありません



!!

がつ…

はああっ



ふはっ

まああ
自然の理だわ



何を思いついたか
知らんが
男は男だ
はみ一瞬間に過ぎん

サンタを倒していた
手前時代を
思い出したよと云ふで

やあ、サンタは
倒されたかいと







申し訳ありませんが
このままともなを
眠らせていただきます

この素晴らしい涙を
止めるためには

それしか方法が
なさそうなので



過去を
抹消して

私は更に
完成に近づく



お前はみんなを
幸せにするために
生まれてきたとが

たぶん
そういうことを
買ったんじゃないの？



たか
おの
ち
つ

大分県立
図書館
蔵書
番号
100-100-100-100

初めて聞いた時から
すてき♪
今でも 好き
個性であるだけだ



あああああ
あああああ
あっ!!



「お、ボクには
わかる人だからねー
おれは電光石火」

つぎは...
電光石火
電光石火

王土にされたように、
電磁波を脳に
直接放射して!!

西遊記

やめろ。



見るに勝たないとか
言ってるかった



そこまでして
死に願ってはほしては
ねーよ

みずくん

でも



のたくー
お前は強引されても
きついんだよ
全然変わらねーな

みんなを
救うための

お前が
傷ついたり

悪い思いしたり

泣いたりすることは
ぬいんだよ



ズ

ダ



みんなの
中には

お前もちゃんと
入ってるんだから

カッ

しっ

みんなを
幸せにするためには

まずはお前が
幸せにならなきゃな





めだかちゃん
と

!! 呼ぶがよい



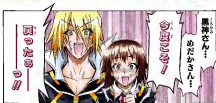
黒神さん…

めだかさん…

めだかちゃん…

戻ったあ

っ!!





はあ、
いつものことだよ
知らぬーな

めだかちゃん

そこまで

お前は
僕の心を
生かしてまたや



早くも
かけたな

……



みんなと
一緒に！

私も
幸せになる！！



むろん

見知らぬ他人の
腹に立つため

なるほど——
いつの間にかお前さんの
個性もきについてたんだな
黒神の娘

近頃で盛り上がりたり
面白かったりすること
人々の何一つ黒神が
仕掛けて

それでお前が
面白かったわけだ

お前がこれだけ
人間同士は互いに
理解しあってもどうも
もんだし

別に聞くほどの
ことじゃねーや

おやあや
無礼だわえ
くにもちゃん

みんな無動機な
態度を異常性で
説明しようだなんて

安心しない

そういうことを
言っている間は

お前は一生
不幸だから

……

華かに僕の娘結婚も
お前と何たり寄ったり
だけとき

今はとても遠くて
それを言う気には
なれないな

お前がこれだけ
人間同士は互いに
理解しあってもどうも
もんだし

お前がこれだけ
人間同士は互いに
理解しあってもどうも
もんだし





だい はこ
第53箱

けいかく

「これがフラスコ計画だ」







ハハハ！
なんだよめだかもん
ちやうどしくなるな

ついにお前も
人を騙うことを
悟ったのかい！

いよいよ
お前さま

めだかは
やだよ

変わらな
いと思いたいに
信じておるまうと

いつかあなたと
わかり合える日が
来ると

めだかは
六年前から
ずっと信じて
おります

なるな

どうなんだと
王士

貴族も貴族の態度を
身につけた以上
お前の悪徳性は
もうあいつには
通じないんだからぬ

ヒソ

ヒソ

このままつれておたら
ますいんにやないめ！

来てるを
行儀

偉大なる俺には
お前にとおめのない
場がある――





……まあ、そ
うの程度だぞ

なんだこの大量の
コンビニ……は

っーか
っ！

冷蔵庫さすぎじゃ
ねーのか
このフロアが



……方、をいよ
……さん

これくらい、さきないも
う……で……は……し……き……に
な……て……し……う……か……ら……ね

なにせ
13万1313番もの
スーパーコンピュータが
24時間稼働することなく
稼働で動作してんだ

金……
地下三階は降……が
想定よりしたみたいだけ

このフロアだけはやっぱり
一年前と同じだったか——



じゅっ……
13万……？

……の……時……には
……と……く……る……い……の……機……が
……だ……も……い……う……こ……と……だ……よ

まあ……

……で……これ……だけの
……機……を……操……る……の……は
……王……土……と……も……ら……い……の……も……の
……だけ……と……ね……

えへへへ

……だ……よ
……の……機……の……な……ん……だ
……か……と……ね……





お前が得ようとする目標も
アラスコ計画には
これだけの被害が
与られている

金のことだけでは
ない
金が動く以上
悪徳人も動く

アラスコ計画に賛成し
人生をかけている人達の数
は国内だけでも十万人くだらん



お前はみんなを
幸せにしたいと
言ったが

お前がアラスコ計画を
進めろ！
被害はともかく
いつかは被害に
不幸になるを



論に思えば
愚問

お前は
死ななことをあるのか？

「犠牲者ともなく
困る者ともなく
誰に犠牲されることもなく
誰に助けられることもない」

「完全に完成された
安全なる人間に
誰でもなれる」

そんな被害を誰かに
禁ずくアラスコ計画が
完成したならば
どれだけの犠牲が
そこに生まれるのか

お前はちやんと
考えたことがあるのか？



つまり
「魔物」が
海外ではないと
いうことだな

なるほど
これが「魔物」の
特徴だ

魔物出現だ



そのために
「魔物」の
出現にしよう
というのだろ？

その計画で
いいだ

そうなるも
ない



魔物も
お前達も
みんな
お前達も
みんな
お前達も
みんな

魔物として
お前達として
お前達として
お前達として



王の
もう
もう

しかし
ワタス
魔物

魔物
魔物
魔物
魔物

お前
魔物
魔物
魔物



中々
それは
それは

しかし
魔物



ザ
ブ
ブ

魔物
魔物
魔物
魔物

だって
完全な人間なんて

作れっこ
ないんだから



まっかー！
私なんかより
貴様達の方が
よっぽど理想主義者だよ

とても暖かい
感じが
するわ

ある意味
本気で面白い

どうしてそんなに
面白いのか
わからない





聞つて聞いてりや
一年生がごちやごちや
うるさいなあノ

正論吐かないと
人を否定すること
で勝ないのかよ、

陳其南

お前は私達がムカつて
つていどでしょ？

[illegible][illegible]

陽がなほ高く照り下す
面々の微笑

「アラスカ計画の完成は、
吾輩人間である私の責任です。」「
絶対に許すわけにはいかない」

陽江市中區



少尉で、
軍神寺の参り始めに、
西方平國の王

[illegible]

それとそれを讀むなら
王土主人の國書だつて
讀むタイプじゃないでしょう



いや
偉大なる俺には

もうひとつ
裏技がある



偉大なる俺の
税率は

100%だ



めたかちゅん

「それは、
前々から、
寛の改進黨は
偉大な黨にこそ
相応しいと思つていた



二元がアーサルの
古實じやあ
とう政論したところ
で、
世界があるからな

「これは、日本美術の中心である。この中心の美術運動に、西洋美術の中心の運動である印象派は、対峙される。印象派は、この中心の美術運動に、対峙される。印象派は、この中心の美術運動に、対峙される。」



「貴族性を重んずるの
人だ」という
お前の腹の黒しさが
証明されたぞ

10



11

.....!!



お兄ちゃん
不幸になりたいなんて
言ってるのなんなのさ

反省するから

今んでも
おまじないを唱えてる

だから
おまじない

おまじないを
唱えてー



お兄ちゃんほ
他の

ボリシより
おまじないを唱えてー



ふん

おおい おまじない
唱えてるなんて
怪けないおまじない
するなよ

おまじないを
唱えて
おまじない

おまじない
おまじない
おまじない



おまじない
おまじない
おまじない

おまじない



おまじない
おまじない
おまじない

おまじない
おまじない
おまじない

おまじない
おまじない
おまじない





書様

あまり
こういふことを
願うたことはないのだが

それでも
人間か？



もちろん

俺が
人間だ

……
そうか



お金の話…？

はむ。

唯一
食いたいた
な子かひとり。



悪魔生士は
六歳から十二歳までの
七年間

ひとり路上で
生きてきた



第54話

お前は三体何なんだ!

日本をすずり
本の橋を食べ
悪魔を倒りながら
生きてくつも

だけど僕は
そんな生活も
感じることば
一度もなかった



なぜなら
その顔には悪に
対する憎しみと
悔みがあったと
認めていたからと

他人の心を
意のままに操る
異能

他人の感情を
意のままに
取り支配する異能

世界を支配するために
あるとしたら
そんなふたつの異能性を
僕は使うまでもなく
隠匿していた

しかし僕はそれらを
主としての武器ではなく
主としての試練だと
とらえていた

「偉大な魔は
ますしの『書院』という
異界性を脱しなければ
ならない」

六魔の幹部王士は
そう考えたのだ

間違っても
この強大な魔力に
溺れてはならない

方に使われるようになるとか
あってはならない

それは彼にとって
異界ではなく
もはや世間だった

さしあたって彼は
因縁を断てた

ごく普通の一般人である
彼らが

もしも王子のそんな
異界性を脱したならば

それなら

どう生活に適用するか

想像に難くなかったからだ

家もある時少しだけ
強しかったけれど

しかしながらとって
困難の心を癒えるなど
彼の真実が許さなかった

魔界を
平和にするため

魔界を
幸せにするため

それは外の世界で
彼は己が異界性を
脱するつもりは
一切なかったのだ

だから
特殊な装置に
保護されるまでの
七年間

彼は自分の異能力を
司座することのみに
熟めた

自分以外の誰一人
同僚者にする事もなく
自分以外の何一つ
犠牲にすることなく

イメーとトレーニングだけで
彼は他の帝王を
引き上げたのだった

あとは機嫌を伺っ
だけだった

人々の感情を察することや
できるほどに
コントロールの腕になった
すなわち世に於て

政治の天才

そしてついに
その日が来た

帝王校の
入学式

諸侯の御人衆として
代々の任務を
任された者は

その日こそ
王の即位の事と
位置づけた

「おれよく覚えている」
「誰と友を思いやれた」
「幸せにあり」

そんな言葉を
口にするつもりで

帝王王は
急ぎ足で歩めて
言葉を口にしたら

ヒザマズケ
跪け。



なんのことはない

七年前の
努力やがんばりも
むなしく

結局、彼は
己の異常性を隠すことなど
もつとできてなかったらしく

むしろ
要するところ
彼の存在

ずっと異常性に
支配されていたように

それから
新座学園入学までの
三年間

都城王士が
どこまでのように
生きてきたかを
知る者はいない――

第54箱

「お前は一体何なんだ」

都城王土

責任が人間なら

私達は
物で
いいよ

100

335

Abstract

Abstract

10



上 部

1995

100

王に
命令するなよ！

黒神
イイイ！！



「黒神様、お久しぶりです。久しぶりの再会に、高々、おめでとうございます。黒神様、お久しぶりです。久しぶりの再会に、高々、おめでとうございます。黒神様、お久しぶりです。久しぶりの再会に、高々、おめでとうございます。」



「黒神様、お久しぶりです。久しぶりの再会に、高々、おめでとうございます。」

「黒神様、お久しぶりです。久しぶりの再会に、高々、おめでとうございます。」







「確かにお前はこれまで
使や符や魔法や呪術を
使ったことはあるが、
あるいは霊能のスキルを
使ったことはあるか？」

「あ、まあそれは
見れば分かるように
違っていたはず
だ！」

「しかし、
古賀の魔術は
他者の魂を
明らかに奪っているぞ！」

「答える！
お前は一体
何なんだ!？」

「異常……」

「それでも
人間か!？」

「違うよ」

「私は」

「化物だ」

「……あなたは鬼神
お前も王と同じ」

「……理不承なる鬼神と
同じ悪魔性を帯びて」

「それも
違うよ」

「王王くん」

「きみの理不承なる鬼神は
前世から悪魔性を
帯びたことでは
感じないだろうか？」

「めだかちゃん
全然違う」

「……きみや王王くんは
前世から悪魔性を
帯びたままじゃ
ないか」

では黒神真里……
魔法使い！



お前の妹の
真性は
どういう種類の
何なのだ？

説明するなよ
王土くん

里あしくも
ない

そして
恥じることもない

最初の魔法性を持つ
皆でさよわかったのは
今までのことだ



その意味じゃ
俺はみんな誰に
感謝すべきかも
しれないな



「二十」歳の十人組という
魔法性にも似た七
人の絆を築き上げることで



今まで
アキラの魔法性だった
めだちちゃんの前で
より強く絆を築きに
なったんだから

どういうことですか
真里さん

さっき俺も
めだちちゃんの魔法性

「他人にできることなる
何でもできる」という
魔法性の真里だとばかり
思っていました

さっきじゃないんだ
真里くん

その能力に
よけているのは
むしろ阿久津くん

見ての通り彼女は
他人にできないことを
できる

くじらちゃん

お前にはもう
わかってるんじゃないの
かい？





こゝろあ
そりやめ

親ねは

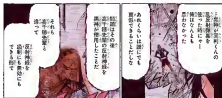
だのたら お前が
愛護しなさい



それが
「フラスコ」の「結晶」としての
責任だ



「結晶」の「結晶」



「結晶」が「結晶」くんの
「結晶」を
使った時にやー
結晶なんとも
思わなかった

あれくらいは「結晶」にでも
買収できることだしな

「結晶」はその「結晶」
「結晶」の「結晶」を
「結晶」が「結晶」したことだ

それも
「結晶」の「結晶」
「結晶」

「結晶」の「結晶」を
「結晶」にも「結晶」にも
できるからで



同じことは「結晶」の
「結晶」についても言える

他人の「結晶」を
愛護してしまふ
「結晶」の悪い
「結晶」

スイマナセ
「結晶」の上で
「結晶」は「結晶」したんだ

「結晶」の「結晶」は
「結晶」の
「結晶」

「結晶」の「結晶」を
「結晶」の「結晶」に
使ったことは
もちろん

その「結晶」の
自分で自分を
「結晶」してしまふ
「結晶」の「結晶」に
「結晶」したい

その自己洗脳の
結果として
今の鬼神がある

本来は力不足では
ないが、
強さは磨き込まなかった
鬼神モードを
今の鬼神は完全に
支配下においている

強いて言うなら
改神モード!!



鬼神モードのみならず
鬼神モードにおいても
自分の力を磨く
要諦するための自己洗脳

鬼神モードには
使えなくても
ぬーが

しかし
どう考えでも
これ以上ないほどに
有効な
本能力の活用だ



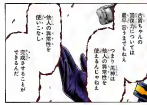
それはむしろ
本能力を磨くための
洗脳に他ならない
洗脳に他ならない

鬼神もやんの
本能力については
鬼の、どうせでもぬえ

つまり鬼神は
他人の鬼神性を
使えぬんじやぬよ

他人の鬼神性を
使えぬんじやぬよ

完成させることが
できるんだ



完成

ジエンド

それが
黒神めだかの
異常性だよ





私は
完全
なんかじゃ
ない

こんなのは
ただ

生物が人間ごっこをして
遊んでいるだけです



ふきけるなよ

鬼神ノ
魔ひだとい

俺達のノ異常者のノ
十三組の命懸けを
潰すことがノ

完成らせることが
お前にとってほ
ただの遊びかノ

俺はっ…
俺はっ…
俺はまただぞノ

俺はれい美奈様を持った
遊はれしまただノ

たとえお前が
化敵であつてもノ

王を助える義務性を
持つなど

許されることではないノ

いや…
そうだ
俺の手はある
女王様のノ

「何言ってんだ
めだかちゃん……
最後の機嫌で！」

またわけの
わかんねーことを――

大丈夫だよ
勝造くん

どうやら今更
あの加人村には
一羽の雀もなくて

プラスコ計画を遂行し
決めたらいいから

いいだろう
黒神めだか、
何を金で
いるか
知らんが

ならば
金で売って
強制しろが

貴様のその
腹立たしい人格も
徴税し！

王は今度こそ
俺の異常性を
支配する！！

改神モード。
完成。

俺が名付けたか。たー。



新名は百鬼夜行

……

黒神めだか！

いいだろう！

異常も！
人格も！

偉大なる俺が
全てのお前を
徴税してやる！！

第55格 「悪いことしたら」

ふはっ！

ははは！
そうかこれが
お前なのか黒神！

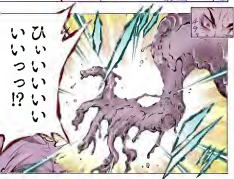
黒神！黒神！
黒神！黒神！
黒神！黒神！



くらっ…

!?

第55箱 「悪いことしたら」



「彼女が死んでしまったら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「彼女が死んでしまったら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「彼女が死んでしまったら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「彼女が死んでしまったら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「彼女が死んでしまったら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「彼女が死んでしまったら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

この女は
あんな黒々を

胸に抱えて
生きているのか!?

「お前さんが死んだら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「お前さんが死んだら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「お前さんが死んだら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「お前さんが死んだら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「お前さんが死んだら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「お前さんが死んだら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

「お前さんが死んだら、
この世はまた一つ悲しい世になる」

冗談じゃないぞ
お前……

あんな圖を！

あんな
有り返しのつかない圖を
俺に押しつけようとしたのか

お前は？

お前は人間を
何だと思つて
るんだ？

このっ……

化物がつ！！

……すず

言いたいことは
それだけか？



……………

……俺のあけた

俺がやる俺は
いざと手を
あそぶん

ワウスロウ……
おんじきもって
返すする

……

……





だから――
許してくれ

これまでつらき経験が
洗練にいたるまでにも
できる限りの準備をしてらう

「行方不明と宣告の年」は
覚悟する



……
言いたいことは
それだけか？



だから！

許してくれ！！

「言葉の重み」も
「理不尽な重税」も永久に
封印する！

今後 絶対に
悪事は働かないと
誓う！



言いたいことは

それだけか？



それ

だけか？





これにて
一件落着ウ！



凜

!!

「さっさと
十三人の真面目なやつを
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」

「さっさと
殺さなくちゃ」



このまま、僕が居てもいいかな
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

のどかな声で、僕は聞いて
「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

それは、僕が居てもいいかな
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」



「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」



「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」

「僕が居てもいいかな」
と、思っているうちに、
「僕が居てもいいかな」





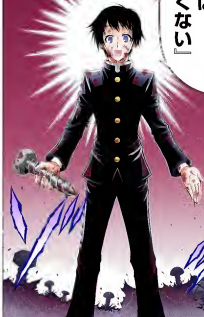








「僕は
悪くない」





「めだかちゃん
久しぶりっ」

「僕だよ」



「っ！」

「球磨川っ…!？」

球磨川 禊

所属: 三年マイナス十三組

血液型: AB型

備考: 転校生





世界はぼーと
あぶのーまるこれくしょん⑧

みやこのじょうおうど
『くりえいと』

とうそつたいふ

でんじのもからで
ひとのこころを
あやつるよ。
きがいやきんぞくも
おもいのます。

ひみつだけど
たにんののうりょくを
でんきてきこ
はたーんがして
ちょうぜいすることも
できるんだ。
ぜいりつ
ひゃくばーせんとは
かんべんして…。





デジタルカラー版

めだかボックス 十三組の十三人編

4巻

西尾維新

©西尾維新 2010, 2012

駿月あきら

©駿月あきら 2010, 2012

初版発行 2010年

デジタル版発行 2012年

発行者 集英社

<http://www.shueisha.co.jp>

この作品は、著者直筆のカラー原稿に加え、著者の原稿をもとに集英社でデジタル彩色を行った特別編集版です。

本作品の内容あるいはデータを、全部・一部にかかわらず、無断で複製、改竄、公衆送信（インターネット上への掲載を含む）することは、法律で禁じられています。また、個人的な使用を目的とする複製であっても、コピーガードなどの著作権保護技術を解除して行うことはできません。